

2000年01月31日

北九州市市民局区政課・講演

「NPOが果たす役割と自治体の NPO施策」



九州大学 大学院人間環境学研究科 助教授

「NPOふくおか」副理事長

安立清史



(1) NPOが世界的に急拡大している

- 1) 世界的にNPOが急増・急拡大
 - ex.東欧諸国、アジア諸国
- 2) 日本でも都市部でNPOが急増。
 - ex.住民参加型在宅福祉活動、介護保険制度関連
- 3) NPO認証数 わずか1年で1千団体。
 - 福岡県は全国第五位 注目されている



(2)なぜNPOが注目されているのか。

- 1) 低成長 小さい政府、行政のスリム化、地方分権
- 2) 少子・高齢化 保育や介護ニーズは拡大急増 行政への要求は大きくなるが...
- 3) 保健・医療・福祉・教育・文化・国際交流・まちづくり ニーズの質がヒューマン・サービス、対人社会サービス
- ゼネラリストではなくスペシャリストが。専門家が社会のニーズを把握しながら提供していく仕組みへ 行政は苦手？

少子・高齢化社会 の基本構図

社会的
ニーズ

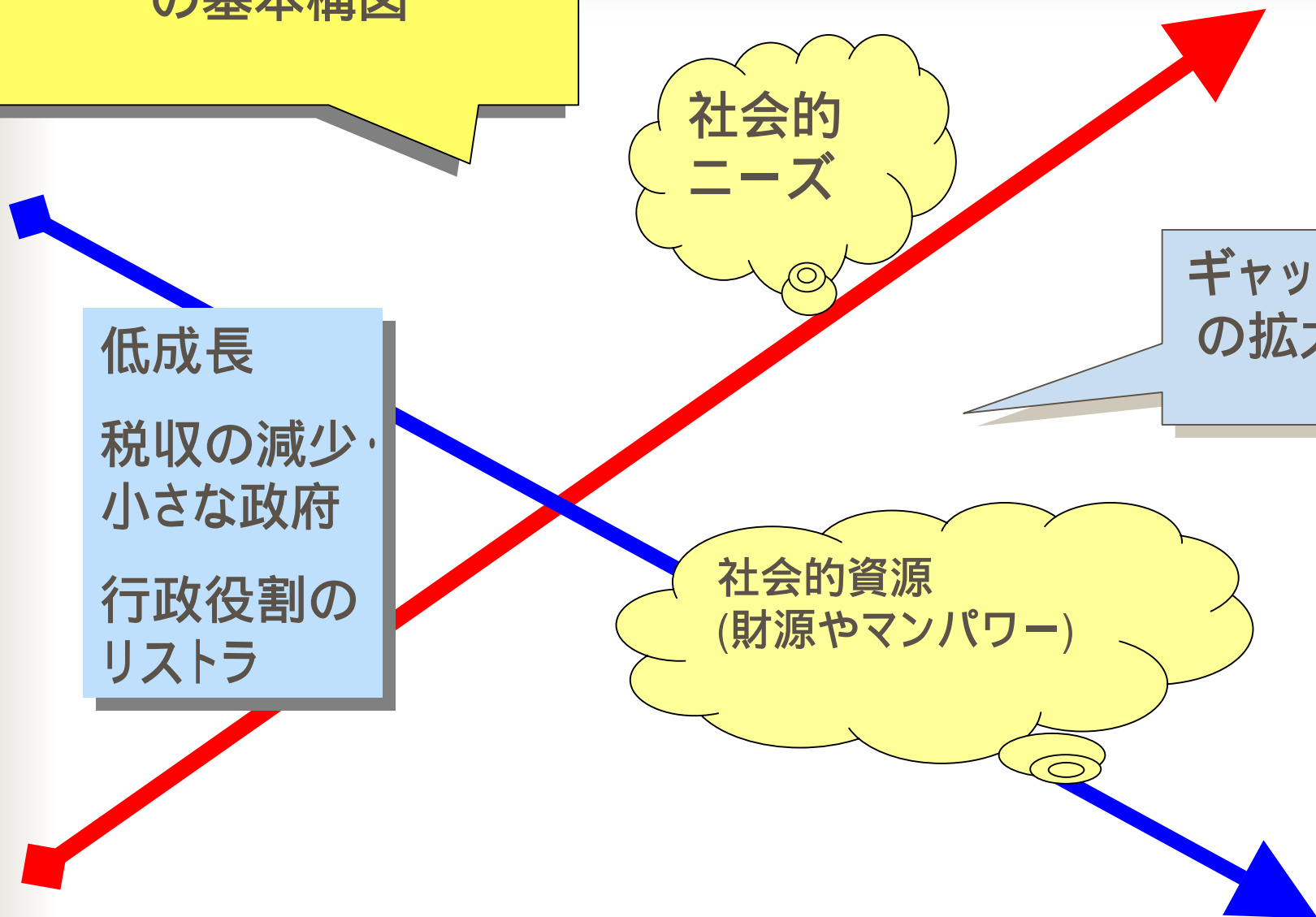
ギャップ
の拡大

低成長

税収の減少・
小さな政府

行政役割の
リストラ

社会的資源
(財源やマンパワー)



社会福祉から
社会サービスへ

在宅福祉
地域福祉
社会サービス
有償・有料サ
ービス
家族サポート



生活保護

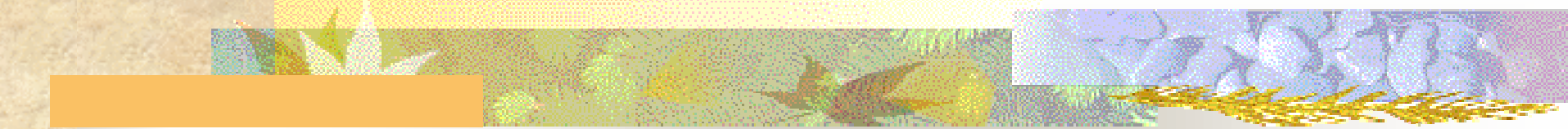
過渡期

社会福祉

GHQの指令
戦争孤児や未亡
人・戦後復興

家族や地域
社会の変化

核家族化・小子高齢化・同
居率の低下
家族機能の低下



(3) 市民・住民の行政への要求は拡大する **しかし、行政は縮小していく。大きなギャップが生じる。**

- 行政の役割の再定義の必要
- (1) 業務の整理・縮小・統廃合 (リストラ)
- (2) 業務の外部への委託(アウトソーシング)
- (3) 民間活力 (コマーシャライゼーション)




(4) 外部への委託が、これまでは
「第三セクター」へ行われてきた
しかし...

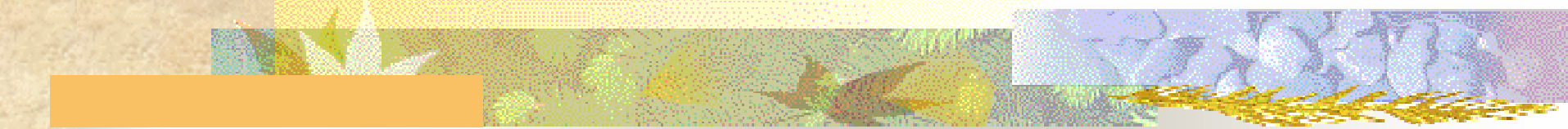
- 1) なぜうまくいかなかったのか。
 - 人材？ 資金？ 組織？
- 2) 業務委託ではない方向がありうるか。
- 3) アメリカの行政 NPOとの共働



(5) 行政セクター・企業セクターに加えて
「市民セクター(ボランティア・NPOセク
ター)」ができるかどうか。 **NPOの課題**

- 1) 問題NPO。ゆるやかな認証基準 いろいろなNPOが現れる。問題NPOも出てくるだろう。
- 2) 実績。NPOの能力が見えない。生まれたばかりで実績なし。
- 3) 評価基準。団体、能力、人材、さまざまな次元の「評価」が必要に。しかし基準がない

- 
- 4) 誰が評価するか。行政が評価できるか？
NPOによるNPOの「評価」の必要。ex.アメリカの事例
 - 5) NPOのエンパワメント。NPOの能力のパワーアップ ex.アメリカのNPOサポートセンター
 - 6) 社会の側のサポート(資金・人材・チャレンジの機会)

- 
- 7) 行政の役割 (アメリカでもNPOの資金の大半は行政から)
 - 8) NPO効果。NPOが活躍し始めると 既存の第三セクター、公益法人、行政その他、社会全体の活性化につながる。
 - 9) NPOと公益法人との関係。NPOは「オルタナティブ(とって代わるもの)」ではない。対人社会サービス提供における供給回路の多元化、多様化であって、結果として、既存の社会システム全体を活性化させる



(6) 行政のNPO支援

- 1) 東京ボランティア・市民活動センター
- 2) かながわ県民活動サポートセンター
- 3) せんだい・みやぎNPOセンター
 - その他



(7) 民間のNPOセンター

- 1) 大阪ボランティア協会
- 2) さわやか福祉財団
- 3) 長寿社会文化協会
 - NPO事業サポートセンター
- 4) NPOサポートセンター
- 5) NPOふくおか



(8) アメリカのNPOの実際

- 安立清史のホームページ
 - 「アメリカNPOめぐり」



(9) アメリカの行政とNPOとの関係

- 連邦政府からの一括補助金(block grants)
- カウンティや州から、市へ
- 市は「RFP」request for proposal を出す
- NPOが応募する
- 市が審査する
- 業務委託とは少し違う。むしろ共働作業



(10) 今後の課題

- NPO側の課題
- 行政側の課題